

こんな時だからこそ

「人生思い通りにならないことばかり。そのことが私に大切なことを気づかせてくれる」

先日こんな言葉に出会いました。一度は落ち着いたように見えていた新型コロナウイルスが再び感染拡大している現実。いつもの冬と違いご自宅で過ごす時間が多いことと存じます。未知のウイルスへの不安や普段当たり前のように会えていた人と会えない寂しき。思い通りにならない現実を抱えヤキモキしているのではないでしょうか。

冒頭の言葉にある「思い通りにならないこと」は私たちに一体何を語りかけているのでしょうか。時間のある今だからこそ、じっくり向き合うのもいいかもしれません。独りではありません。ご一緒に悩んでいきましょう。



滋賀県東近江市 玄照寺

住職 瓜生 崇 先生  
うりゅう たかし

## 法蔵菩薩の物語

まずはじめに、その物語には国王が登場します。私たちは生きていく限り自分の人生が思い通りになつたらいいのにと、思っ生きてるわけです。逆に思い通りにならないことで苦しみます。だから私たちは自分の願いが満たされたら幸せになれると思っっています。国王とは私と同じように自分の願いを満たしていこうと懸命に生きていく、そういう存在の象徴として国王が出てきます。

この国王が世自在王仏と云う仏様に出

## お盆のつどい ご法話（後編）

二〇二〇年七月五日（日）

お盆のつどいは新盆を迎える皆様と一緒に講師をお迎えした。ここでは、当日教えに聞く法要で、このたびは新型コロナウイルス対策としてYouTubeで配信

遇います。この世自在王仏とは世において自在にみんなを自覚ましてくという名前です。そして世自在王仏のお話を聞いてこの国王はとて驚きます。それは私がどれだけ私の願いを突き詰めていても、私は私の殻から一歩も出られないということに気づかされたからです。そして、今まで自分の願いを一生懸命に満たしていかうと私は生きていたけれど、その生き方を棄てて、「法蔵」という名の道を求める菩薩になります。

そしてこの法蔵は世自在王仏に「私はすべての人をみんな平等の世界に目覚まして、その独りぼっちの殻から破って救ってあげたい。どうしたらみんなを目覚ましていくことができるでしょうか」と世自在王仏に言います。すると世自在王仏は「それはあなたの問題だからあなたが一番よく知っているはずだ」と言います。

法蔵は今まで自分の願いでずっと生きてきた、ところが自分の願いでは私は本当に目覚めることがないということに気づいた。だから「本当の願い」を知りたい。「本当の願い」でみんなを目覚ましていきたいとこのように思いました。「あなたの本当の願いはあなた自身が一番よく知っているはずだ」と世自在王仏は言うのです。でもそれを聞いた法蔵は「私の本当の願いは深すぎて自分でもわからない」と困るのです。

### あなたの本当の願いは？

皆さんの「本当の願い」は何ですか？あなたの一番大事な願いを一個だけ叶えると言われたら何を願いますか？家族が平和で暮らせるように、コロナが無くなりますように、深

刻な病気に罹っていたら病気が治りますように、と言うかもしれません。でも「あなたがあなたの本当の願いか」と聞かれるとわからないのではないのでしょうか。即答できる人はほとんどいないほど「本当の願い」は案外わからない。自分の願いが叶ったら本当にそれで救われるのかと言われると、はたして本当にそうだろうか。自分という存在は自分が思っているよりもずっと深いのです。

つまり私たちは自分の「本当の願い」を知らないのです。世自在王仏に「あなたが一番よく知っているだろう」と言われたときに、そういえば自分の「本当の願い」がわからないということに法蔵は気がついたのです。

だから今までの仏様がどんなことを願って仏に成ったのかを私に教えてくださいと法蔵は言いました。世自在王仏はそれを聞いてこの宇宙にいる仏様がどんな願いを建てて仏様に成ったのかということに法蔵にすべて見せます。そして仏様の世界を見ていったときに法蔵はあることに気がつきました。それは仏様が紡いでいった願いというのはすべて「善し悪しの願い」だったということです。

ここは大事なところです。私たちの願いはすべて善し悪しの願いです。ここが悪いからこうなって欲しいと、これが善いものでこれが悪いものだと境界線を引いて悪いところから善いところへ行きたい、それが私の願いです。健康の方が病気よりも善い、お金持ちの方が貧乏よりも善い、痛いよりも痛くない方が善いとすべて善し悪しでしょう。何が悪くて何が善いかを自分の知恵で分断して善い方が欲しいと言いつけていく、これが私の願いです。自分の願いを見ていくならばそういうところが出てきますよね。

例えば大学受験でなぜその大学を選ぶのかと言えば、自分にとって善い大学だと思うからです。就職活動で会社選ぶときも給料や環境や業績の善し悪し、ブランド価値やステータスがあるかを区別してすべて善し悪しを選んでいきます。結婚も同じで自分にとって悪い相手だと思ったら結婚しませんね。

ところがこの善し悪しというものの中心には必ず「私」がいるのです。「私」にとって善いものは何か？「私」にとって悪いものは何か？そうやってすべて「私」を中心にした

善し悪しという殻を作って、その殻に閉じ籠り独りぼっちです。「私」の価値観の世界には「私」以外に誰も入れませんからこの善し悪しの世界に生きている限り、結局「私」は独りぼっちなのではないでしょうか。

練馬の真宗会館という真宗大谷派の施設には「我以外 皆我師（私以外みな私の先生である）」と書かれた額があるそうです。ところが近田昭夫という先生はその額を見るといつも「我以外 皆我利用価値（私以外みな私の利用価値である）」と思ったそうです。私にとって価値があるのかないのか、私にとって善いものか悪いものか、私にとって役に立つものかそうでないか、そういう世界には「私」以外に誰も入れず独りぼっちです。

### 通じ合えない願い

法蔵はすべての仏様の世界を見終わってこの善し悪しの願いでは駄目だ、善し悪しを超えた願いを建てなければ本当に人が救われることはないと感じました。そして世自在王仏にこの善し悪しを超えた世界を作りたいと言いました。「物事の善し悪しというのは自分で勝手に作り上げているものなのに、その

善し悪しに執らわれてみんな苦しんでいる。

その人たちに本当の世界はみんな平等の世界であると目覚ませたい」と。このような願いを建てた者はこれまでいませんでした。それまでの仏様は病気になっていたら病気の苦しみから助けてあげましょう。貧乏だったら豊かにしてあげましょう。こういう仏様はたくさんいました。でもこれは全部善し悪し、この善し悪しからあなたを解放し目覚ませたいと法蔵は言ったのです。これはとても大事なところですよ。

長生きするのが善いことで早死にするのが悪いこと、お金持ちなのが善いことで貧乏なのが悪いこと、それは全部「私」が勝手に決めているだけで、本当はどのような人生もどのような人もすべて平等だと言うんです。でも「そんなはずはない！早死にするよりも長生きした方が善い！貧乏よりもお金持ちになる方が善い！病気よりも健康の方が善い！みんなから嫌われるよりも好かれた方が善い！」と「私」はそれに対して拒絶し続ける、そういう「私」の姿があります。

法蔵はそこからすべての生きとし生けるも

のを解放したいと言ったわけですよ。それを聞いた世自在王仏は「それは言うなれば太平洋の水をお玉で全部すくい上げて空にして一番底にある宝物を持ってくるくらい難しい。それだけの努力をすればできるだろう。でもそれはあなた（法蔵）がずっと仏になれないまま修行し続けなければならず永遠の時間がかかる」と言いました。それに対して法蔵菩薩は「必ずやり遂げます！」と答えました。

そしてどうしたら私たちが平等の真理に目覚まそうかができるだろうかと五劫という永遠の時間をずっと法蔵は悩み考え続けたとお経には書いてあります。なぜこれほど考えるのでしょうか。それは「私」には一切平等が耐えられないからです。つまり「私」と法蔵の願いが全く合わないのです。法蔵は私を平等に目覚ましたいと願っている。ところが私は「私」中心の世界を綺麗に仕立て上げて「私は私が一番大事。他の人と一緒である平等なんて結構です」と言って背を向け続けているわけですよ。ずっと迷い続けてきた世界からあなたが出るのができないのは、あなたが大事にしている「私」というものが原因で、そ

の「私」の殻を突き破って平等に目覚ましたいと法蔵は願うのです。ところが平等ということは自分がムカデやカメムシと一緒に命ということ、長生きするのも早死にするのも、幸せに暮らすのも不幸に暮らすのも「私」が勝手に決めたことで、そんな善し悪しは存在しないということでしょう。そんな話は聞きたくない。そんなことよりも私は「私」の願いが大事だと言いながら、独りぼっちで苦しみ続ける、そういう「私」がいるわけです。

だから法蔵菩薩はそういう「私」の姿を見て、お互いの願いが完全にすれ違っている、どうしたらいいんだと悩み続けました。「本の願い」が救いたい人の願いに繋がっていかない。「私」の殻を突き破って念じ合うということはどういうことなのかと法蔵菩薩は五劫の間ずっと考え続けます。

### 私を呼び、私が呼び返すー南無阿弥陀仏

そしてついに法蔵菩薩は気づきました。この独りぼっちで閉じ籠こもっている真つ暗な私が何を本当に願っているのかと言えば、この私を呼んで欲しかったのだと気づきます。私たちはお金持ちになりたい、健康になりたいと

色々な願いをもつて生きていますけど、その願いの底にあるもの、人間存在の一番根底にある願い、それは「呼ばれたい」という願いです。誰も私のことを呼ぶ人がいなくなったら私は生きていけないのです。

みなさんは地獄がどういう世界だと思えますか？血の池に堕ちて苦しむことが地獄だと思えますか？ところが本当の地獄はそうではありません。本当の地獄とは「誰も私を呼んでくれない世界」です。どこに行ってもあなたは知らないという世界です。「ただいま」と家に帰ると「おかえり」と言ってくれるでしょ。地獄というのは家に帰ったら「あなたは誰ですか」とみんなが言ってくる。誰に会っても「あなたは誰ですか」と、私を呼ぶ人が誰もいない、そういう世界が地獄、究極の独りぼっちの世界です。私はそれを恐れるのです。私たちの様々な願いの一番底にあるのは「私を見捨てないで欲しい」という願いです。法蔵はそのことに気づいたのです。それに気づいた法蔵は法蔵自身の願いを「私のことを呼んでくれ」という願いにしたのです。私はいま修行中の身だけれどもあな

たが私のことを呼んでくれたら、私は阿弥陀あみだ仏ぶつ※法蔵菩薩が仏と成った姿が阿弥陀仏に成ることが出来る。「私の名前を呼んでくれ、私の名前を呼んでくれるまで私は仏に成りません」と願いを建てたのです。これは究極の転換です。

普通私たちが仏様を思うとき、その仏様が私に何をしてくれる仏様なのかと考えると思います。ところが阿弥陀仏はあなたを幸せにするとか、あなたの心を満たすと言いません。この私へ名前を呼んでくれとお願いをするのです。阿弥陀仏は名前を呼んでくれるまで仏と成って救われないと。名前を呼んでくれるまで私も目覚めないと。言ったのです。そのときに初めて独りぼっちのこの「私」を必要とし、ずっと求め続け、ずっと願い続ける存在がここに生まれました。

そして私に名前を呼んでもらうためには、まず私を呼び続けなければなりません。だから法蔵菩薩は私をずっと呼び続けるのです。あなたが呼ばれたのであったら、まず私（法蔵菩薩）があなたを呼ぼうと。そしてあなたが深いところで呼ばれたいという願いを

抱えているなら私（法蔵菩薩）も呼ばれたいという願いを持つと。そうやってお互いの願いを一緒にしたのです。私と法蔵の願いが一緒になったものを南無阿弥陀仏というのです。我が名を呼んでくれと言っているのです。独りぼっちで生まれて、独りぼっちで死んで流転るてんしていく、その私を本当に必要としてくれる存在がそこに生まれたのです。我が名を呼んでもらうためには私を呼ばなければなりませんからこの仏様は私のことをずっと呼び続けるのです。私のことをずっと南無阿弥陀仏と呼び続けるのです。だから阿弥陀仏という仏様はこの私を南無阿弥陀仏と呼ぶ存在です。そう呼ばれた私は阿弥陀仏のことを南無阿弥陀仏と呼び返すのです。ここに仏様と私の願いが一緒になって、相念あいねんじ合う世界が生まれるのです。この南無阿弥陀仏という言葉をもって孤独な私の殻が破られていく、これを誓ったんです。そしてこの南無阿弥陀仏を届けるために宇宙にある仏様を総動員して私に南無阿弥陀仏と呼ばせたのです。


お盆―亡くなった方もはたらいっている

今日はお盆でここへお参りでいらっしやる

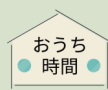
と思いますけれど、亡くなった方がここへ連れてきたのではないですか？亡くなった方がいなかったらここへは来なかったでしょう。そういう亡くなった人、生きている人、あらゆる人々を総動員してこの私を南無阿弥陀仏という言葉に目覚ませようとしたのです。宇宙全体にこの言葉を響かせて、宇宙全体のすべての仏様に南無阿弥陀仏と私を呼ばせたのです。ずっと呼び続け求め続けられている、その願いに押し出されて、この南無阿弥陀仏という言葉が私に聞きに来て、そして南無阿弥陀仏と呼び返す。このときに私は知らされるのです。自分はちっぽけな自分の世界に閉じ籠こもって苦しみ悩む本当に小さい存在である。ところがその私が一切平等の世界からずっと呼ばれ続けて願われ続けている存在であり、必ずその闇は破れるんだと、南無阿弥陀仏の呼びかけから知らされるのです。こういう願いを法蔵は建てた。殻に閉じ籠こもって暗い世界にいる者に仏様と仏様が相念じて相願い合つて、そしてこの私の殻が破られていく世界が今の私に届いている。阿難あなんはそのことに気づいたのです。そのことをお釈迦様は

「阿難よ、あなたが気づいたのは南無阿弥陀仏です」と教えたと言われています。

法話の最後に南無阿弥陀仏と念仏しますけれど、私を南無阿弥陀仏と念仏させているのは南無阿弥陀仏と呼んで欲しいという仏様の願いです。そしてその願いが私に南無阿弥陀仏という言葉となって届いている。そのように南無阿弥陀仏がいまこの場所にまで届いているということは、狭いところに閉じ籠こもって独りぼっちで泣いている私に「必ずあなたを本当の智慧に目覚ませ、一切平等の世界に目覚ませる」そういう願いが私に届いている相すがたなんだということを感じていただければあります。 (了)

 YouTube 真英寺法話チャンネル

当日の瓜生先生のご法話をお聞きになりたい方はパソコン・スマートフォン・タブレットからご覧いただけます。



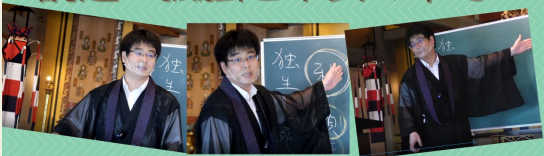
真英寺 YouTube

検索

<https://youtu.be/YBsPvrvp11A?t=615>

瓜生崇師ご法話

講題 孤独と不安の中で



# お寺の掲示板

くらべず あせらず あきづめず

竹中 智秀

この言葉は仏様のお心を表していると聞きました。このお心に触れるとき、逆に私たちの心が知らされます。思い返せば私たちはコロナ禍と言われる状況に振り回され、思い通りにならない自分を認められず、思い悩み、暗い日々を送っています。まさに私の心は人と「くらべ」、理想的な自分になろうと「あせり」、どうせ私なんてと自分を「あきらめ」ていたのです。「比べず、焦らず、諦めず。今のままのあなたひとり存在が尊いのです。同じように他の人もまた皆等しく尊いのです。だから大切にしてください」これが仏様の願いです。それなのに私自身の心が背き、自分で苦しみを生み出しているのです。そんな私だからこそ独りぼっちの世界からたすけようという願いをかけてくださる阿弥陀仏がおられるのです。

## 2021年 年間行事予定表

(新型コロナウイルス感染拡大の状況により日時は変動する可能性があります)

- 1月2日(土) 14時 修正会
- 3月21日(日) 14時 春彼岸会法要
- 7月4日(日) 11時 お盆のつどい
- 9月19日(日) 14時 秋彼岸会法要
- 11月7日(日) 11時 報恩講

## 令和3年(2021年)年回表

50回忌	47回忌	43回忌	37回忌	33回忌	27回忌	23回忌	17回忌	13回忌	7回忌	3回忌	1周忌
昭和47年(1972)	昭和50年(1975)	昭和54年(1979)	昭和60年(1985)	昭和64年/平成元年(1989)	平成7年(1995)	平成11年(1999)	平成17年(2005)	平成21年(2009)	平成27年(2015)	平成31年/令和元年(2019)	令和2年(2020)

# 浄土真宗Live!

副住職が法話をしました

浄土真宗Live!は、YouTubeなどのソーシャルメディアを利用して、浄土真宗の法話を世の中へ広く配信しています。

先日、浄土真宗Live!で副住職が法話をしました。初めてカメラの前で話しました。左のQRコードを読み込むとご覧いただけます。



浄土真宗Live! 検索



眞英寺寺報「慈現」第三号

発行 眞英寺 (眞宗大谷派 京都東本願寺)

東京都新宿区若葉二丁目一番三

TEL 03-3351-5955

E-mail m-miura@stenei.jp

URL https://www.sinei.jp/

